

平成 26 年度

事業報告書

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

学校法人 安田学園

目 次

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地	
(1) 安東キャンパス	1
(2) 白島キャンパス	1
2. 沿革	2
3. 組織図	
(1) 学校機構図	4
(2) 事務組織図	5
4. 設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数	6
5. 役員、教職員数	7

II. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業	
(1) 安田女子大学・安田女子短期大学	8
(2) 安田女子高等学校・安田女子中学校	1 3
(3) 安田小学校	1 5
(4) 安田女子大学附属幼稚園	1 9
(5) 安田女子短期大学附属幼稚園	2 2
(6) 安田学園セミナーハウス	2 6
(7) 創立 100 周年記念事業推進企画委員会	2 7

III. 財務の概要

1. 資金収支計算書の推移	2 8
2. 消費収支計算書の推移	2 9
3. 貸借対照表の推移	3 0
4. 貸借対照表関係比率の推移	3 1
5. 消費収支計算書関係比率の推移	3 1
6. 在学生数・教職員数の推移	3 1
7. 5年間の財務 経年比較表	3 2

1. 設置する学校及び所在地

(1) 安東キャンパス

広島市安佐南区安東6丁目13番1号

学校名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備考
安田女子大学	大学院 文学研究科 博士前期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 教育学・心理学コース 臨床心理学コース	平成6年度	平成24年度から募集停止 平成24年度から募集停止 平成24年度文学部児童教育学科を改組 平成24年度文学部心理学科を改組
	博士後期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻	平成8年度	
	家政学研究科 修士課程 健康生活学専攻	平成25年度	
	薬学研究科 博士課程 薬学専攻	平成25年度	
	文学部 日本文学科	昭和41年度	
	書道学科	平成23年度	
	英語英米文学科	昭和41年度	
	児童教育学科	昭和50年度	
	心理学科	平成16年度	
	教育学部 児童教育学科	平成24年度	
	心理学部 心理学科	平成24年度	
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	平成15年度	
	家政学部 生活デザイン学科	平成16年度	
	管理栄養学科	平成16年度	
薬学部 薬学科	平成19年度		
看護学部 看護学科	平成26年度		
安田女子短期大学	保育科 秘書科	昭和30年度 昭和63年度	
安田女子大学附属 幼稚園		昭和56年度	

(2) 白島キャンパス

広島市中区白島北町1番41号

学校名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備考
安田女子高等学校	全日制課程 普通科	昭和23年度	
安田女子中学校		昭和22年度	
安田小学校		昭和31年度	
安田女子短期大学 附属幼稚園		昭和28年度	

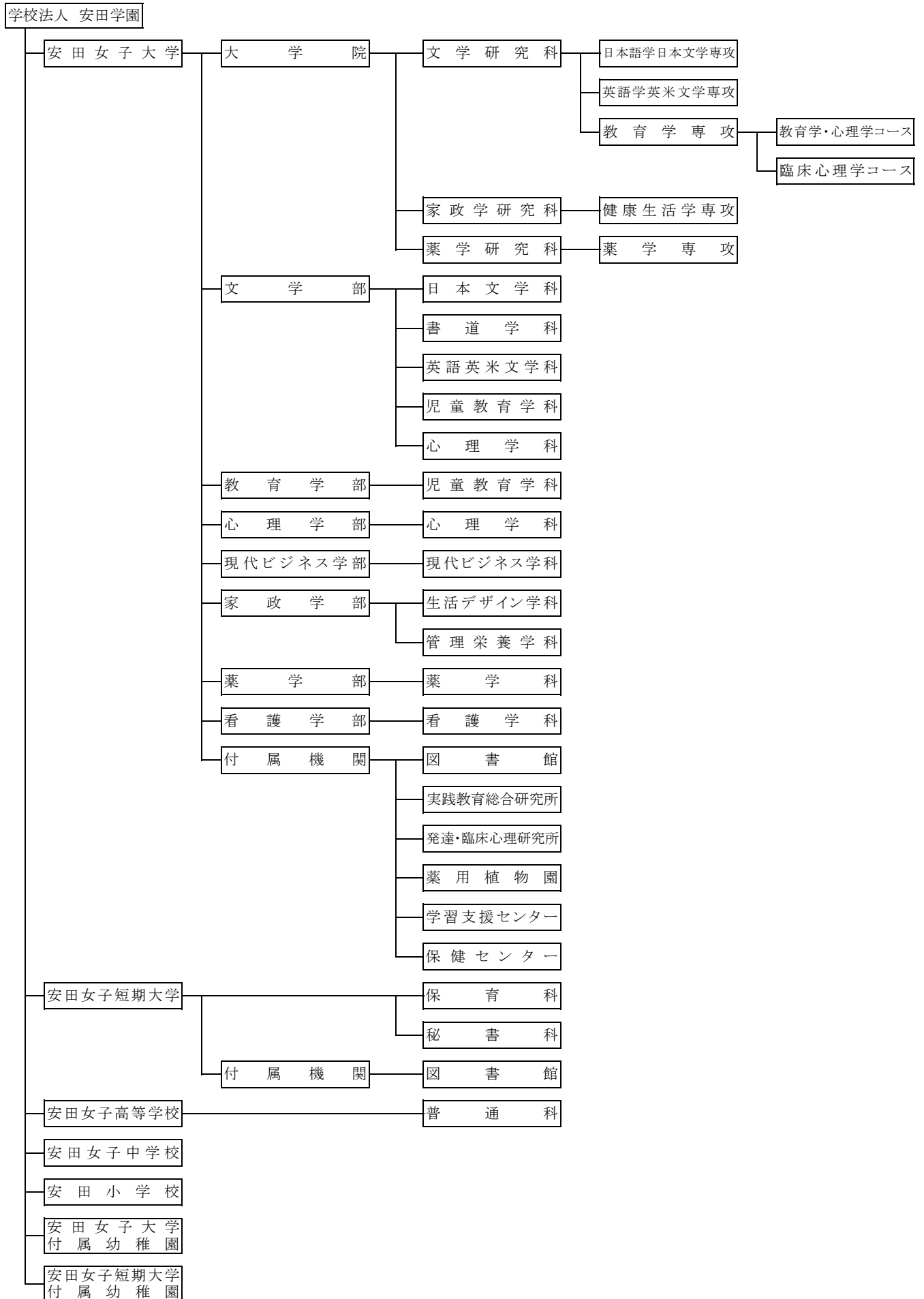
2. 沿革

大正	4年 (1915)	1月	広島技芸女学校開校の開設認可を広島県知事より受ける
		4月	各種学校令による広島技芸女学校開校 (広島市中島本町)
	6年 (1917)	10月	校地を広島市基町 (現西白島町) に移す
	7年 (1918)	4月	広島技芸女学校を安田技芸女学校と改称
			実業学校令による広島技芸女学校開校
	9年 (1920)	4月	広島技芸女学校を高等女学校令による広島実科高等女学校に昇格
			安田技芸女学校は旧名の広島技芸女学校に復す
	11年 (1922)	4月	広島実科高等女学校を改組して安田高等女学校を開校
昭和	2年 (1927)	8月	広島技芸女学校を広島高等家政女学校と改称 (昭和20年3月まで存続)
		3年 (1928)	8月
	5年 (1930)	5月	広島女子教員養成所開所
	19年 (1944)	3月	広島女子教員養成所廃止
		5月	安田高等女学校内に保育所併設 (昭和20年3月まで)
	20年 (1945)	8月	原子爆弾のため職員13名、生徒315名死亡 校舎全壊 終戦
		12月	校地に旧工兵隊跡地使用の内諾を得、翌年1月本格的復興工事開始
	21年 (1946)	4月	安田高等女学校5年制となる
	22年 (1947)	4月	学制改革により安田女子中学校を開校
			広島Y・D・Mカレッジ開校
	23年 (1948)	5月	学制改革により安田高等女学校を廃止し、安田女子高等学校を開校
	26年 (1951)	3月	学校法人安田学園へ組織を変更
		4月	広島県の委嘱をうけ広島県保育専門学校を開校 (昭和28年3月まで)
	28年 (1953)	4月	安田学園幼稚園教員養成所を開所
		6月	昭和27年5月開園した安田保育園を廃止し、安田幼稚園を開園
	30年 (1955)	4月	安田女子短期大学保育科開学
	31年 (1956)	3月	安田学園幼稚園教員養成所廃止
		4月	安田小学校開校
	36年 (1961)		安田幼稚園を安田女子短期大学付属幼稚園と改称
		4月	短期大学に家政科開設
	40年 (1965)	3月	広島Y・D・Mカレッジ廃止
	41年 (1966)	4月	安田女子大学文学部日本文学科、英米文学科が安東校地に開学
	42年 (1967)	9月	短期大学を白島校地より安東校地に移転
	50年 (1975)	4月	大学文学部に児童教育学科開設
	56年 (1981)	4月	安田女子大学付属幼稚園を安東校地に開園
	59年 (1984)	4月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科と科名変更
	63年 (1988)	4月	短期大学に秘書科開設
平成	3年 (1991)	4月	短期大学家政科を生活科学科と科名変更
		6年 (1994)	4月
	8年 (1996)	4月	大学院文学研究科に博士後期課程を開設
	10年 (1998)	4月	大学文学部に人間科学科を開設
	14年 (2002)	4月	大学文学部日本文学科を日本文学専攻、書道文化専攻の2専攻に分割
	15年 (2003)	4月	大学に現代ビジネス学部現代ビジネス学科を開設
	16年 (2004)	4月	大学に家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科を開設
			大学文学部人間科学科を心理学科に改組、人間科学科は学生募集停止 短期大学生活科学科を学生募集停止

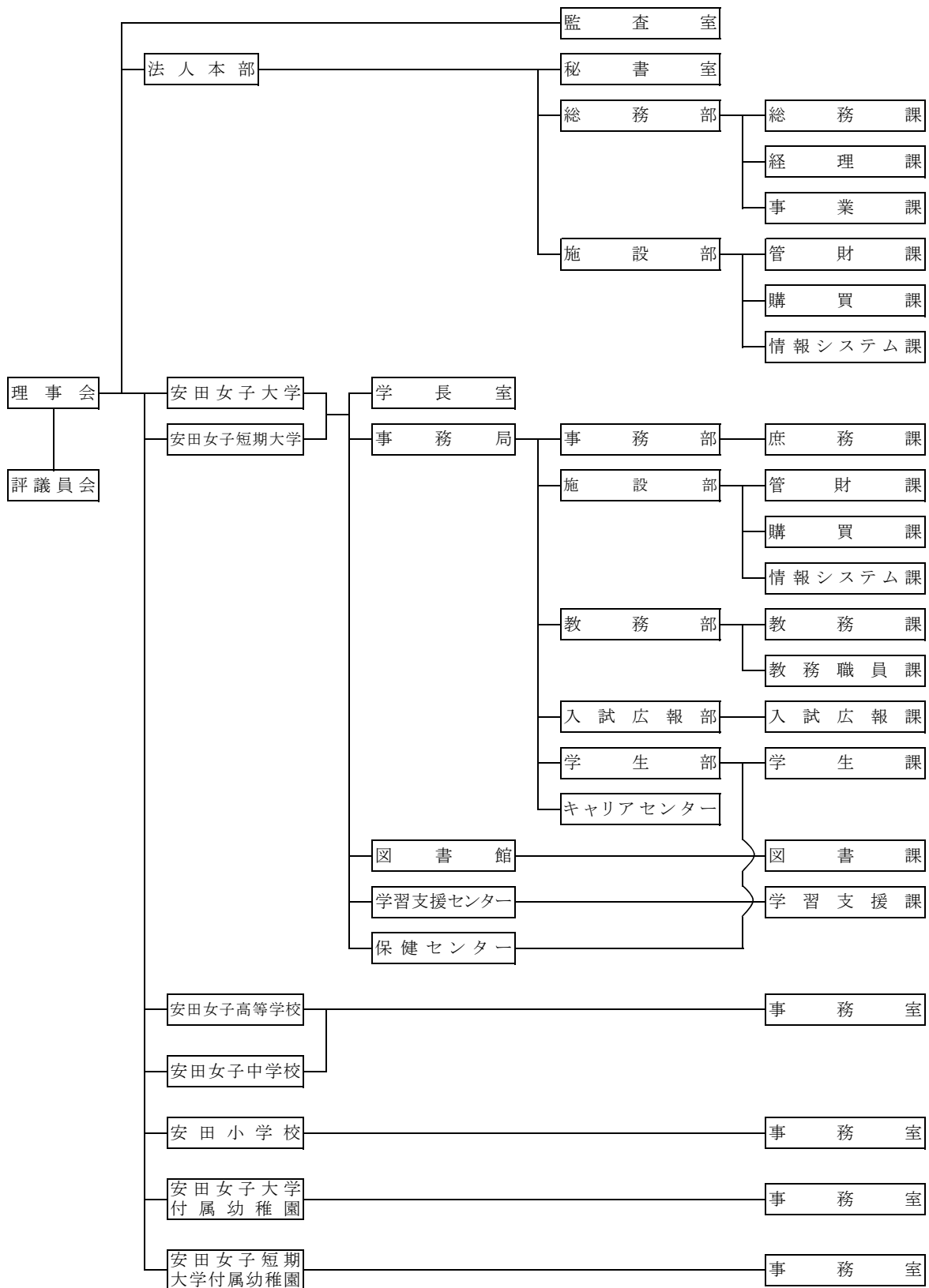
平成	17年 (2005)	3月	短期大学生生活科学科を廃止
	19年 (2007)	4月	大学に薬学部薬学科 (6年制) を開設
		9月	大学文学部人間科学科を廃止
	23年 (2011)	4月	大学文学部日本文学科日本文学専攻を日本文学科に改組、日本文学科日本文学専攻は学生募集停止 大学文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組、日本文学科書道文化専攻は学生募集停止
	24年 (2012)	4月	大学文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組、文学部児童教育学科は学生募集停止 大学文学部心理学科を心理学部心理学科に改組、文学部心理学科は学生募集停止
	25年 (2013)	4月	大学院に家政学研究科修士課程健康生活学専攻を開設 大学院に薬学研究科博士課程薬学専攻を開設
	26年 (2014)	4月	大学に看護学部看護学科を開設

3. 組織図

(1) 学校機構図



(2) 事務組織図



4. 設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数

平成26年5月1日現在

設 置 学 校	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	在 生 学 数	備 考
安田女子大学					
大学院					
文学研究科					
博士前期課程	30	—	60	34	
博士後期課程	9	—	27	1	
家政学研究科 修士課程	3	—	6	4	平成25年度開設
薬学研究科 博士課程	2	—	4	1	平成25年度開設
大学院計	44	—	97	40	
文学部					
日本文学科	90	1	362	415	
書道学科	30	1	122	118	
英語英米文学科	110	2	444	501	
児童教育学科	—	—	120	114	平成24年度から募集停止
心理学科	—	—	92	101	平成24年度から募集停止
文学部計	230	4	1,140	1,249	
教育学部					
児童教育学科	110	10	340	365	平成24年度文学部児童教育学科を改組
教育学部計	110	10	340	365	
心理学部					
心理学科	90	2	272	292	平成24年度文学部心理学科を改組
心理学部計	90	2	272	292	
現代ビジネス学部					
現代ビジネス学科	120	2	474	515	
現代ビジネス学部計	120	2	474	515	
家政学部					
生活デザイン学科	105	2	419	460	
管理栄養学科	120	—	400	392	
家政学部計	225	2	819	852	
薬学部					
薬学科	120	—	750	483	
薬学部計	120	—	750	483	
看護学部					平成26年度開設
看護学科	120	—	120	103	
看護学部計	120	—	120	103	
学部計	1,015	20	3,915	3,859	
大学計	1,059	20	4,012	3,899	
安田女子短期大学					
保育科	150	—	300	301	
秘書科	100	—	200	196	
短大計	250	—	500	497	
安田女子高等学校					
全日制課程 普通科	270	—	810	703	
安田女子中学校	250	—	750	644	
安田小学校	80	—	480	486	
安田女子大学付属幼稚園	70	—	210	207	
安田女子短期大学付属幼稚園	60	—	200	187	
学 園 合 計			6,962	6,623	

5. 役員、教職員数

平成26年5月1日現在

(1) 役員

理事 9 人 (理事長 1 人含む)

監事 3 人

(2) 教職員

区 分	教 員	事務職員	非常勤教員	兼務職員	計
安田女子大学	167	80	192	56	495
安田女子短期大学	21	12	41	8	82
安田女子高等学校	39	7	10	11	67
安田女子中学校	34	7	8	4	53
安田小学校	23	6	4	8	41
安田女子大学付属幼稚園	10	1	0	11	22
安田女子短期大学付属幼稚園	9	1	0	11	21
その他	0	3	0	3	6
学 園 合 計	303	117	255	112	787

Ⅱ. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業

(1) 安田女子大学・安田女子短期大学

① 看護学部看護学科を設置

看護学部看護学科（入学定員 120 名、収容定員 480 名）を設置し、看護師、保健師、助産師養成課程を開設しました。

② 外務省事業による訪日団受入れ

日本政府（外務省）の事業「KAKEHASHI Project」により、アメリカのロヨラ・メリアマウント大学の学生 23 名が平成 26 年 6 月 30 日に本学を訪問しました。

書道学科、英語英米文学科及び箏曲部の学生約 70 名が安田流クールジャパンをアピールすべく、日本ならではの伝統文化（日本食、箏曲、七夕、書道）を英語で紹介しながら、体験的活動を通して交流を図りました。

また、6 月 29 日には英語英米文学科の学生が宮島散策に同行し、厳島神社等を案内しました。

外務省の事業による本学の訪日団受入れは、平成 25 年度の韓国青年研修団に続き 2 例目となります。本プログラムを通じて生まれた絆は今後も様々な形で続き、将来的には、広く国際社会における日本及び地域の情報を発信し、国際的な視野を持った次世代の人材として成長するための経験を培い、日本との相互理解を増進する上で重要な役割を果たすものと期待しています。

③ 社会人・OG と学生フォーラムの開催

本学では企業や経済団体、地域の団体や自治体等と連携し、産業界のニーズに対応した人材育成を目的として、平成 24 年度に文部科学省に採択された「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に取り組んでいます。

平成 26 年度は、同事業の一環として、本学卒業生を含む社会人の方をお招きし、「社会人・OG と学生の交流フォーラム」を 2 月 26 日に開催しました。

フォーラムでは、「働く女性に必要な力を学生時代にどう身につけるか」をテーマとして、学生 403 名、参加企業・団体、大学関係者 29 名がそれぞれ異なる立場から意見交換しました。フォーラムは 3 部構成で、まず初めに大学生代表、教員、参加企業・団体の方に登壇いただき、シンポジウムを開催しました。次に、学生達は業種別に分かれて社会人と身近な距離でグループワークを行い、最後はグループワークの成果を学生代表が発表しました。

④ 学習支援センター

平成 26 年度の同センターの活動内容は、以下のとおりです。

A. インターンシップ

125 の企業・団体に対し、262 名の学生が参加しました。

B. 課外講座

開講、受講状況は、次のとおりです。

提供講座：36 講座 開講講座：23 講座 延べ受講者数：約 680 名

C. ボランティア活動

91 件のボランティア活動の募集を行い、延べ 351 名の学生が参加しました。

8 月 20 日に発生した広島市大規模土砂災害への支援のため、学習支援センター内に「災害ボランティア室」を立ち上げ、8 月 24 日からボランティア学生の派遣を開始し、10 月 21 日までの期間に、延べ 410 名の学生が参加しました。

D. 学内検定試験

学内で申込みを受け付け、試験実施を行う検定試験を同センターで取り扱っています。

「TOEIC (R)」、「日本語検定」、「日本漢字能力検定 (漢検)」、「硬筆書写検定」、「毛筆書写検定」「秘書検定」の 6 検定を取扱っています。「TOEIC (R)」、「日本語検定」、「日本漢字能力検定 (漢検)」については、受験料の一部が安田女子大学後援会から補助されています。

平成 26 年度の各検定試験の申込者数は、下表のとおりです。

(人)

検定試験	級	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	その他 (1 年生・ 留学向等)	合計
TOEIC (R)	—	406	91	320	270	1, 179	2, 266
日本語検定	2 級	11	32	—	—	—	43
	3 級	16	14	—	—	—	30
日本漢字能力検定 (漢検)	2 級	45	74	64	—	—	183
	準 2 級	9	10	11	—	—	30
硬筆書写検定	1 級	0	1	1	—	—	2
	準 1 級	0	3	0	—	—	3
	2 級	2	7	2	—	—	11
	3 級	19	3	6	—	—	28
毛筆書写検定	1 級	0	0	1	—	—	1
	準 1 級	0	1	0	—	—	1
	2 級	0	1	0	—	—	1
	3 級	1	1	0	—	—	2
秘書検定	1 級	2	5	—	—	—	7
	準 1 級	10	27	—	—	—	37
	2 級	151	190	—	—	—	341
	3 級	44	16	—	—	—	60

⑤ 保護者懇談会

保護者の方々に本学へ来ていただき、教員との面談や施設見学の中で、安田女子大学・安田女子短期大学の教育等についての御理解いただくことを目的とし、保護者懇談会を実施しました。

平成 26 年度は、通算第 5 回目の開催となり、10 月 4 日(土)に開催しました。

また弦楽部による演奏が 9 号館アトリウムで行われ、多数の保護者の方に御覧いただきました。

なお、来場者数集計、保護者からの評価は、以下のとおりです。

A. 来場者集計結果

- ・ 533 名の保護者が来場され、372 名が各学科個別懇談に参加いただきました。
- ・ 学科ごとの学生数に対する来場者比率では、薬学部保護者会を当日同時開催した薬学科が 27.8%、次いで今年度新しく開設しました看護学科が 21.4%と高い参加率となりました。

続いて保育科 18.4%、秘書科 14.8%、管理栄養学科 14.1%、児童教育学科 12.4%となりました。

・ 学年別では、1 年生 13.2%、2 年生 6.5%、3 年生 8.7%、4 年生 2.0%、薬学科 5 年生 16.4%、同学科 6 年生は 17.5%でした。昨年度と同様、入学したばかりの保護者の関心の高さがうかがえる結果となりました。

・ 地域別では、地元広島県 42.5%に続き、山口県 6.1%、島根県 5.2%、福岡県 1.5%、愛媛県 1.1%、岡山県 0.6%、鳥取県 0.6%の来場でした。

・ 過去に保護者会に参加されたことがあるか(リピート率)についてアンケートを取ったところ、回答者のうち、36.7%が過去にも参加されたことがありました。

B. 保護者からの評価

全体内容については、アンケートの 3 段階評価(よかった、どちらでもない、よくなかった)のうち「よかった」が 92.2%と、昨年度と同様、高い評価を得ることができました。

開催時期に関しては、95.5%が「ちょうど良い」との回答結果を得ました。その他、「学生生活についてわかってよかった」、「これから就職を考える娘の親としての心構えができました」などの意見が多数寄せられました。

⑥ 海外研修プログラム

本学では、外国の言語や会話の学習に加えて文化や習慣について理解を深めるために、「海外研修プログラム」を実施し単位認定しております。

平成 26 年度は、以下のとおり同プログラムを実施しました。

なお、アメリカ派遣 6 ヶ月留学(STAYS)は、平成 26 年度実施分より、カリフォルニア州立大学サンバナーディノ校とカリフォルニア大学デイヴィス校の 2 校に分かれて実施しております。

A. アメリカ派遣 6 ヶ月留学(STAYS) 15 単位

- 対 象： 大学文学部英語英米文学科 2 年生（参加者：90 名）
 期 間： 平成 26 年 9 月 9 日～平成 27 年 2 月 6 日（151 日間）
 派遣先： カリフォルニア州立大学サンバナーディノ校
- B. アメリカ派遣 6 ヶ月留学（STAYS）15 単位
 対 象： 大学文学部英語英米文学科 2 年生（参加者：36 名）
 期 間： 平成 26 年 9 月 18 日～平成 27 年 2 月 13 日（149 日間）
 派遣先： カリフォルニア大学デイヴィス校
- C. 児童教育学科海外教育語学研修（SEEC）2 単位
 対 象： 大学児童教育学科 1～3 年生（参加者：23 名）
 期 間： 平成 27 年 2 月 1 日～平成 27 年 3 月 2 日（30 日間）
 派遣先： ヴィクトリア大学（カナダ）
- D. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修Ⅰ（G. LABOSⅠ）2 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科 1～3 年生（参加者：18 名）
 期 間： 平成 27 年 1 月 31 日～平成 27 年 3 月 11 日（40 日間）
 派遣先： 南クイーンズランド大学（オーストラリア）
- E. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修Ⅱ（G. LABOSⅡ）2 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科 1～3 年生（参加者：15 名）
 期 間： 平成 27 年 3 月 1 日～平成 27 年 3 月 29 日（29 日間）
 派遣先： ヴィクトリア大学（カナダ）
- F. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修Ⅲ（G. LABOSⅢ）2 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科 1～4 年生（参加者：17 名）
 期 間： 平成 26 年 7 月 28 日～平成 26 年 8 月 23 日（27 日間）
 派遣先： ワシントン大学（アメリカ）
- G. 秘書科海外研修（BETA）3 単位
 対 象： 短期大学秘書科 1 年生（参加者：26 名）
 期 間： 平成 27 年 1 月 31 日～平成 27 年 3 月 8 日（37 日間）
 派遣先： 南クイーンズランド大学（オーストラリア）
- H. アメリカ文化語学演習（ACLPL）2 単位
 対 象： 大学 1～3 年生、短期大学 1 年生（参加者：37 名）
 期 間： 平成 27 年 2 月 16 日～平成 27 年 3 月 13 日（26 日間）
 派遣先： カリフォルニア州立大学サンバナーディノ校
- I. 中国文化語学演習（CCLPL）2 単位
 対 象： 大学 1～4 年生（参加者：13 名）
 期 間： 平成 26 年 8 月 4 日～平成 26 年 8 月 18 日（15 日間）
 派遣先： 国立台中科技大学（台湾）

⑦ 奨学金/留学生交流支援制度（短期派遣）

英語英米文学科アメリカ派遣 6 ヶ月留学（STAYS）、現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修（LABOS）、および秘書科海外研修（BETA）に参加する学生を経済的に支援す

るため、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度（短期派遣）に 3 プログラムを申請し、全てのプログラムが採択されました。

海外留学支援制度（短期派遣）とは、日本の大学、大学院、短期大学等が、諸外国の学校等と学生交流に関する協定等を締結し、それに基づく諸外国の学校等への短期間の学生派遣を支援する奨学金で、月額 6 万円～8 万円を支援するものです。

本学では、対象の海外留学プログラム参加学生で、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計 138 名に、独立行政法人日本学生支援機構より給付された奨学金 3,758 万円を配付しました。内訳としては、8 万円×5 ヶ月×76 名分（STAYS）、8 万円×1 ヶ月×25 名・7 万円×2 ヶ月×10 名（LABOS）、7 万円×2 ヶ月×27 名（BETA）となります。

⑧ 学生の出身高校訪問

広島県外高校出身の在學生（大学・短期大学 1 年生）が、夏休み中に帰省して出身高校（母校）を訪問し、高校の先生に成長した姿を見せて学生生活を報告することを教育的な機会と考え、大学として支援しました。

広島県外高校出身の学生は、東京都から沖縄県まで 18 の都道府県で 278 名在籍しており、このうち、85 名が出身校を訪問しました。

⑨ ノートパソコン供与

平成 25 年度までは新入生各自がノートパソコンを用意していましたが、授業指導やトラブル対応の効率化を目的として、平成 26 年度より大学および短期大学から同一モデルを新入生全員に供与しました。これにより、ノートパソコンを活用した学習効果が向上しました。

⑩ 施設の改修・整備

A. 3、4 号館の解体

耐震基準を満たしていない 3、4 号館を解体しました。

解体後の跡地には、新 1 号館を建設し施設設備を再構築するとともに、教育環境の更なる改善に取り組んでいます。

またキャンパスの入口にふさわしい景観と、正門からキャンパス中心部への学生動線の更なる改善を行います。

B. 学習支援センター・キャリアセンターの整備

3、4 号館解体に伴い、既存の学習支援センター・キャリアセンターを 1 号館 1 階に整備しました。正門入口付近に配置することで、学生がより身近に訪問できる施設として整備することができました。

C. 7 号館 2 階英語カフェの整備

3、4 号館解体に伴い、既存の英語カフェを 7 号館 2 階に整備しました。

英語カフェを利用する学生は、7 号館での授業が多く、より多くの学生が利用するようになりました。

D. 7 号館 3・4 階の改修工事

7号館3階の普通教室を教育実践実習室に改修し、4階の普通教室を研究室6室に改修しました。

7号館4階の改修した研究室を児童教育学科の研究室とし、教育実践実習室を3階に整備することで、学科関連授業を7号館に集約することで、利便性のよい教育環境となりました。

E. 事務サーバーの遠隔バックアップ

安東校地と白島校地の双方のバックアップデータを、他方の校地へ夜間転送する仕組みを構築しました。これにより、災害時でも重要データが保全されるバックアップ体制が整備されました。

F. 業務データベースのアクセス監視

法人本部及び大学の業務データベースに対するアクセス監視システムを更新し、情報漏えい等セキュリティトラブル時の追跡調査機能が強化されました。

(2) 安田女子高等学校・安田女子中学校

① 課題研究と教科連携による生徒の科学的思考力育成の取り組み

平成24年度からのスーパーサイエンスハイスクール(以下SSH)指定により、理科・数学を中心とした科学的思考力・判断力・表現力の育成が、学校としての研究開発課題となっています。本校ではこの取り組みを理科と数学に限定せず学校全体の取り組みとして、すべての生徒の科学的思考力を向上させるため、中学1年生から教科連携を取り入れた課題研究に取り組んでいます。

中学1～2年生：研究の手法を学び研究の流れを理解させることを目的に身近な問題を題材として、グループによる課題研究に取り組みました。

中学3年生：ゼミを構成し、ゼミごとにテーマを設定して1年間かけた長期研究に取り組みます。通常授業との教科連携も活用しながら、「思考を深める」ことを目的にしています。研究成果は2月の研究発表会や本校以外での研究発表会でも発表しました。

高校1～2年生：課題研究の集大成として、自分の進路も意識した課題研究に取り組んでいます。研究成果をレポートにまとめ、高校3年生での志望理由書やAO入試にも活用していきます。

またSSコースでの課題研究は、理科や数学に重点化した内容とし、その成果を研究論文にまとめ、各種研究発表会や学会等で発表しました。

② 進路観育成と進路保障の取り組み

6年間を通して自らの進路について考え、進路目標の設定や主体的な学習の取り組みができるようにプログラムを展開しています。特に進路観の育成では6年間を通じて行う課題研究とも連携を強め、高校入学時の学習モードの切り替えや高校2年生での文理選択などが生徒にとってよりよきものになるように調整をはかっています。

	進路観の育成や進路保障に関する主な取り組み
--	-----------------------

高校1年生	オリエンテーション合宿 学部・学科研究 大学オープンキャンパスへの参加 高大連携講座への参加 模擬授業「学問の入り口」 進路講演会
高校2年生	進路講演会 高大連携講座への参加 大学オープンキャンパスへの参加
高校3年生	進路講演会

③ 国際交流

高等学校では夏期海外研修、短期・長期留学などを実施することにより、異文化体験をし、国際的な視野を広げると共に、日本の伝統文化への理解を深める取り組みを行っています。

A. ニュージーランド・ダニーデン市の姉妹校オタゴ女子高校への語学研修・留学

a. 夏期海外研修

期間 平成26年7月29日～8月14日 17日間

参加者 高校1年生39名

引率者 岡谷教諭、高橋教諭

b. 1年間留学

参加希望者なし

c. ニュージーランド3ヶ月留学

期間 平成26年7月～10月

参加者 参加希望者なし

B. 台湾蘭陽市の姉妹校国立蘭陽女子高級中学校との交流

a. 課題研究での発表交流(国立蘭陽女子高級中学校訪問)

期間 平成26年9月15日～18日

参加者 6名

引率者 山野教諭、安原教諭

b. 課題研究での発表交流(国立蘭陽女子高級中学校の生徒が来校)

期間 平成26年11月29日～30日

*宮島での自然科学フィールドワーク実施

④ 安全対策

交通安全員の配置

下校時の安全対策として正門前の交差点に交通安全員を配置しました。特に、秋冬は日が短くなる時間帯と下校時が重なるため、交差点での事故が懸念されていました。今回の人員配置により、事故の懸念が払拭され、安全が確保されることになりました。

⑤ 施設・設備改修整備

A. 高校第1音楽室の改修

高校特別校舎3階の音楽室の全面改修を行いました。階段教室の机・椅子は表面

の歪み・破損・汚れが目立っていたので更新いたしました。また、高効率の照明器具への更新により、教室内の照度アップをいたしました。同時にAV機器も更新し新たな機能を追加したことにより、指導者の指示が的確に伝わるなど、教育効果が高まりました。

B. 高校生徒用シューズボックスの更新

高校生徒が使用しているシューズロッカーを更新しました。今回は2段タイプのシューズロッカーにしたことで、上履き・制靴を各々収納することができるようになりました。

C. 中学校パソコン教室の更新

これまでのパソコン教室は、デスクトップ型で情報以外の授業での展開に制約がありました。今回、キーボードが分離できるハイブリッド型のノートパソコンとし、無線LANも敷設いたしました。これにより情報以外の他教科での使用や、グループでの学習など多様な用途での利用が可能となり、教育効果の向上が期待されます。

D. 安田リヨウ記念講堂屋上防水改修

昨年度行った安田リヨウ記念講堂屋上部分の残り、東側部分(約 400 m²)の既存防水層を更新しました。防水工法は短期間で施工が可能な高速硬化ウレタン防水(環境対応型防水工法)で、これにより天井の剥落や漏水の防止対策となりました。

(3) 安田小学校

① 「学びの姿」を視点にした質の高い学習活動への取り組み

子どものまなざしに見え、一人ひとりが課題を持って学べる質の高い学習活動を推進しました。教職員は、一人ひとりの児童の実態を踏まえた上で、「学びの姿」を視点にした質の高い「授業作り」を目指し、カリキュラムを作成しました。また、子どもの考える力やコミュニケーション能力を育てる目的で、クリティカルシンキングの研究に取り組みました。

② 一貫校としての取り組み

A. 幼稚園・小学校の連携

安田小学校独自の教科「くすのき」の学習で、1年生は短大附属幼稚園の年中園児を招いて11月に「あそびの広場」を実施しました。2年生は大学附属幼稚園の年長園児を招いて6月に「おもちゃ祭り」を実施しました。4年生は短大附属幼稚園の年長園児を招いて10月に読書交流「おはなし広場」を実施しました。

B. 大学・小学校の連携

土曜日の授業では学生ボランティアを募集し、算数・国語を中心に授業の補助をお願いしました。また、2月には5年生を対象に管理栄養学科の学生による食育教室「エネルギーを見ておやつを選ぼう」を実施しました。

C. 高校・小学校の連携

2月に5年生がサイエンス教室に参加しました。自然科学探究コース40名の生徒が、炎色反応やストロー温度計、静電気振り子などの実験を小学生に指導しました。

③ 子どもの心を耕し、言葉の力を育む図書館教育充実の取り組み

本校教育の大きな柱として図書館教育を位置づけています。子どもの心を耕し、言葉の力を育む図書館教育を実践しています。「ブックトーク」「ストーリーテリング」「読み聞かせ」「パネルシアター」「読み合い」「アニメーション」「読書会」「図鑑と百科事典の使い方」「クリティカル・リーディング」などの授業実践や、「リーディング・ビジット」「読書郵便」「ブックチャレンジ」「親子読書」「朝の10分間読書」「読書祭り」などを通して、図書館教育の充実に取り組みました。

各種コンクールでの入選

国語科・図書館活動の一環として、また教科学習の一環として参加した対外的なコンクールでは、全国レベルの場で数多く評価されました。文化的土壌が根付いています。

- ・「第28回市民文芸作品」1席3名、2席1名、3席3名、佳作17名
- ・「白秋祭協賛少年少女俳句大会」入選1名 掲載作品6名
- ・「地図ならびに地理作品展」 特選3名、優良賞3名
- ・「広島市科学賞」優秀賞17名、佳良賞28名
- ・日本語検定に71名が参加し、68名が合格。うち6名は高得点で特別表彰を受けました。

また、成績優秀により学校賞を受賞しました。

④ 正しい言葉遣いと礼儀正しい態度の育成

6月は「あいさつ」、10月は「服装(身だしなみ)」、11月は「礼儀(あいさつ・態度)」の月間を設けて活動し、低学年・中学年は立ち止まって礼をする児童、名前を呼んで挨拶をする児童が増えました。また、階段や廊下で子どもたちが立ち止まって軽く会釈をして通り過ぎる姿も数多く見られました。また、年11回、保護者会パパ倶楽部の方が毎回30名前後來校され、朝のあいさつ運動(ハロープロジェクト)を実施されました。

⑤ しつけ教育

しつけ面・生活の自立について、学級指導で重点的に取り組みました。また、書籍「安田式しつけ教育」を12月末に作り、広島市内の書店に置きました。これは、安田小学校のしつけ教育を広く知ってもらうためです。また、保護者が本校のしつけ教育を理解し、書籍の中にある家庭でのしつけをきちんと指導してもらうためでもあります。

⑥ 安全指導・安全対策

A. 児童の安全講習会

「自分の命を守り、人に迷惑をかけない登下校」を年間の目標として6月に、1年生から6年生までの「なかよしグループ(異学年縦割りグループ)」で安全講習会「かさの取り扱い方」を実施しました。6年生が中心となって行う安全講習会は高学年のリーダーシップを生かした取り組みとしても定着しています。

B. 下校方面別指導

年3回下校方面別の話し合いを持ち「危険な箇所」や「子ども110番の家」の確認をするなど、危険回避能力の向上を図りました。

C. 防犯教室

12月に1年生から6年生まで広島中央警察署警察官の方に来ていただき、防犯教

室を実施しました。どの学年も携帯の使い方や携帯によって犯罪に巻き込まれる危険性について指導をしていただきました。

D. 避難訓練

4月は火事を想定して小学校単独で避難訓練を、1月は地震を想定して幼稚園から高校までの合同防災訓練を実施しました。

⑦ 多様な体験活動・宿泊学習・鑑賞会等

A. 体験活動

- a. 4、5年スケート教室 b. 6年スノーボード教室

B. 宿泊学習

- a. 3年山の学習1「もみのき森林公園」5月29日（木）から1泊2日
b. 4年山の学習2「帝釈峡・吾妻山」7月21日（月）から2泊3日
c. 5年海の学習「蒲刈・県民の浜」7月28日（月）から2泊3日
d. 5年まほろば学習 京都での日本の伝統文化体験学習10月22日（火）から3泊4日
e. 6年山の学習3「島根県三瓶山一帯」7月21日（月）から3泊4日

C. 鑑賞会・特別授業「一流のものを鑑賞させたい」をめあてに内容を選定しています。

a. 鑑賞教室（全学年）

12月に全学年で能のワークショップと鑑賞会を行いました。

b. 音楽鑑賞（3年～6年生）

3年生以上の学年で音楽鑑賞教室を行いました。

- ・3年生は2月に、あおぞら金管合奏団による金管楽器鑑賞教室
- ・4、5年生は2月に、アンサンブル ami による木管楽器鑑賞教室
- ・5、6年生は2月に、ベル・クチュールによる弦楽四重奏鑑賞教室

c. 劇団四季によるミュージカル鑑賞

12月、劇団四季によるミュージカル「魔法を捨てた魔女リン」を6年生が鑑賞しました。

d. 特別授業

5年生は2月に外部講師による特別授業「新聞記事の作り方」を行いました。

⑧ オーストラリア海外学習及び国際交流、姉妹校提携

A. 海外学習

平成27年3月21日（土）から4月1日（水）までの春休み12日間、オーストラリア・アデレード郊外で海外研修（4・5年希望者対象）を実施しました。参加した4年生19名・5年生3名は、1名1家庭でホームステイ生活を経験しました。現地では、Redeemer Lutheran 小学校で児童との交流・英会話学習などを行いました。また、シドニーのオペラハウス・ロックス地区・ダーリングハーバー見学など、外国での生活や見聞を通して異文化理解を深め、他国の人も積極的に関わっていく姿勢を身につけました。

B. 国際交流

7月に国際理解教育で6年生が国際交流員（ニュージーランド・アイルランド）の

方と交流し、日本の風習（正月・ひな祭り・こどもの日など）を英語で説明しました。2月には4年生の児童が JICA 研修員（ルワンダ・セネガル・ジブチなどフランス語圏 8 か国）の方と交流活動を実施し、広島のことを英語で説明しました。海外学習の受け入れ校である Redeemer Lutheran 小学校とは、姉妹校提携を結んでおり、5年生が6月に自己紹介を、11月には学校紹介を Skype で行い、友好を深めました。また、2年生はクリスマスカードをもらい、お返しに年賀状を出し、文化交流をしました。

⑨ 保護者支援

A. 文化教室（保護者対象）

10月に「自己肯定感を育む親子のかかわり」と題して、文化教室を実施しました。講師は安田女子大学教育学部准教授 永田彰子先生で、当日は保護者の方が多数参加され、大盛況でした。

B. 学校カウンセラーの配置

子育ての不安や悩みを相談する場として学校カウンセラーを採用しました。数名の保護者が継続して利用をされました。

⑩ 児童募集

A. 6月学校公開

6月7日(土)に、本校の教育に興味を持たれている方を対象に学校公開を実施しました。説明会参加保護者約 310 名（園児約 180 名）。2校時は授業参観、3校時は保護者の方に学校紹介の説明を聞いていただき、園児は6年生企画による紙芝居・折り紙・ゲーム・お絵かきなどをして楽しみました。

B. 児童募集説明会

9月23日（祝）実施。参加者約 182 名（アンケート回答数）

C. 園児面接（入学試験）－新入児童募集定員 80 名－

・面接：平成 26 年 11 月 1 日(土)＜女児＞・2 日（日）＜男児＞
募集定員 80 名に対して、応募者数 162 名（受験者数 162 名）

⑪ 新しい取り組み

A. 保護者支援のためのアフタースクール

アフタースクールを開始して4年目に入りました。新しくサッカー教室を始め、大変好評でした。連日 50 名～70 名を超える子どもたちが参加をしています。

B. デリバリー弁当の改善

業者のサンシャインと相談し、国内の地域の特色を出したメニューや外国のメニューを入れて食に関心を持って食事を楽しむようにしました。また、地産地消の食材を弁当に使用していることを理解していただくため、農業体験を実施しました。

C. まほろば学習

5年生が実施していた九州方面の修学旅行を「まほろば学習」として、京都での日本の伝統文化体験学習を行いました。宇治の平等院鳳凰堂や二条城など平安から江戸、幕末までの歴史的文化的遺産を見ることや、能、座禅、お茶、和菓子作り、落語の5つの体験を通して、日本を知り、日本人としての自覚と誇りを持たせる学習を行

いました。

(4) 安田女子大学付属幼稚園

① 保育・研究活動

A. 重点目標「友達と一緒に生活することを楽しみ、自ら友達とかかわる力をもつ子どもの育成」への取り組み

平成26年度は、「友達が好き」の柱を重点とし、意欲的に遊びや生活に取り組みながら、友達と生活する喜びや行動の仕方を知り、友達とのかかわりの中で育まれるつよさや、やさしさを育てたいという願いのもと、教員で意識統一をしながら取り組みを進めました。併せて、昨年の積み残し課題でもあった「自分が好き」の中の「あきらめずに挑戦する、「自然が好き」の柱の中の「身近な自然に触れ、親しむ」も含めた学校評価に取り組みました。

子どもの育成とともに、引き続き「保護者への対応を丁寧にする」「園での教育について保護者の理解を得る」といった保護者との連携も評価項目に入れ、保護者との協力体制を築く努力も継続しています。

年度末のアンケートも97%の回収率で子どもたちの育ちや園の取り組みについてもそれぞれ高い評価をいただきました。

B. 教員の資質向上や指導力の向上を目指して

自己啓発を通して、教員一人ひとりが自身の目指す保育が展開できる保育能力を高めるために、また、現在の社会情勢や保育情勢を知り、視野を広げるために、広島県私立幼稚園・広島市私立幼稚園・国公立幼稚園・県や市の教育委員会等々が主催する研修会に自主的に参加しています。平成26年度は、広島県私立幼稚園の研究グループ3年以下の経験者対象に1名参加、学園からの支援を受けてリトミック研修に1名が参加しました。また、本大学の先生方と連携して、子どもたちの行動分析や室内環境のあり方について検討し、今年度より新たに指導を受けています。

C. 100周年を祝う創立記念日

安田学園は、平成27年1月21日に100周年迎えました。毎年創立記念日の日には、園児に学園の歴史や創設者である安田リヨウ先生の教話を話しています。保護者にも関心をもっていただくために、隔年で希望者の参加を募っています。この度は、記念式に70名の保護者の参加があり、続いて100周年を祝う記念演奏会を開催しました。短期大学保育科卒業生であるKOTOさんを招いて、篠笛と琴の演奏を聴きました。「柔しく剛く」が心に沁みる日となりました。

② 図書教育の推進

A. 絵本の貸し出し

月に2回、週の木曜日に借りて、次週の火曜日に返却するというサイクルで幼稚園の「絵本の部屋」に行って自分の好きな絵本を借りて帰る日があります。平成22年度から行っているこの絵本の貸し出しも、今では子どもたちにとって絵本が身近な存在となっています。2歳児対象の親子登園でも絵本の貸し出しを昨年度から行

っており、継続していく予定です。

B. 税の紙芝居「あきくんとみじちゃんのくらしと税金」寄贈

広島県間税会連合会女性部が、児童に税の大切さや役割を伝え、税への関心を深める・紙芝居を広く活用し、正しい税の知識を普及することを目的にして活動を展開されています。その紙芝居を本園に寄贈していただけることとなり、11月14日に年長組66名が参加し、紙芝居の贈呈式がありました。この紙芝居は安田女子大学児童教育学科のゼミ生が制作しており、紙芝居の読み聞かせもありました。社会の仕組みを学ぶよい機会となり、税金という言葉について関心をもったようでした。

③ 保護者教育の推進

園長主催の「遊びま専科」「聞きま専科」「話しま専科」を継続実施しています。一学期に行った「遊びま専科」は20名の参加があり、園長が行っている「お話しタイム」の話や〇からイメージした形や模様を作り出す簡単な制作を行いました。

また、今年度は、「聞きま専科」を絵本の読み聞かせに関する2回の講座とし、短大の先生から、より深めた内容の話の聞いたり、ワークショップで実際にお話し作りをしたりしました。1回目は19名、2回目は23名の参加者で楽しい場となりました。「話しま専科」もこの度は、大学の先生を招聘し、子育て相談を兼ねてみんなで悩みを共有し、グループで話し合いを行ったり、先生からのアドバイスを聞いたりしました。21名の参加者にとって学年を超えた保護者同士の話ができる良い場となったようです。子育て相談については、今後も継続して取り組みます。

④ 一貫校としての取り組み

A. 大学・短大との人事交流による連携

本園の教諭1名が短大との人事交流として保育科に着任し、3年目を迎えました。今年度も幼児体育Ⅰの授業を本園で実施するプログラムを計画し、6月に体操や鬼ごっこ、11月にはサーキット遊びなどを行いました。その他に、5月から11月までの水曜日には、好きな遊びの時間にコーナーを用意し、子どもたちが自主的に運動遊びに取り組めるようにしました。この運動遊びの3年間の取り組みを大学の紀要にまとめています。

B. 小学校との連携

一貫校である安田小学校の「くすのき」の授業の中で6月に「おもちゃ祭り」が実施され、2年生と年長児との交流を継続して行っています。それぞれのクラスに入り、ペアのお兄さん・お姉さんから制作や遊びをやさしく教えてもらいながら作業できたことや一緒に弁当を食べたことが、小学校への期待感を高め、その後の遊びにつながっていきました。

⑤ 地域との交流

A. 保・幼・小との交流

毘沙門台・筒瀬小学校区の保・幼・小連携推進委員会に参加し、交流を続けてい

ます。その一貫として、8月に毘沙門台小学校で合同研修会が開催され、5名が特別支援教育の講演を聞きました。今年度は、本園が夏休み中の登園日に公開保育を行う計画をしていましたが、広島土砂災害が起きたため、登園日を休園とし、公開保育は次年度に持ち越しとなりました。2月には、毘沙門台小学校を年長児が訪問し、1年生から直接小学校生活について話を聞くことができました。

B. 中学生の職場体験

安佐南区内の安佐中学校・安西中学校・祇園東中学校の職場体験を継続して受け入れています。年間を通して50名の生徒を受け入れました。女子生徒のみでなく、男子生徒の参加もあり、子どもたちにとっても中学生にとっても、お互いに良い刺激を受けあう機会となっています。

⑥ 子育て支援事業

A. 休日園開放「幼稚園であそぼう」

幼稚園への就園を控えた2歳児を対象に、休日に親子で園生活を体験する「幼稚園であそぼう」を継続して行っています。今年度は、7月開催を止め、夏休み中の8月に2回実施しました。合計で107組の参加がありました。

B. 園開放・園庭開放

5月20日の広島市児童福祉月間による広島市一斉園開放をかわきりに、園開放を11回実施しました。今年度は、園開放の内容を検討し、これまでの内容に加えて0歳児ベビーマッサージ・1歳児親子での触れ合い遊び・2歳児親子でおやつを作って食べようなど年齢別の企画をしました。延べ286組の参加がありました。

園庭開放は、年11回土曜日に計画していましたが、天候の影響で実質9回の実施となりました。延べ285組の参加者がありました。

C. 2歳児親子登園

今年度も一学期中は16組3回コースで6グループが体験できるよう実施し、97組の参加がありました。また、一昨年9月にも行っていた親子とも弁当持参の親子登園を4日開催し、62組の参加がありました。新しい方の参加もあり、親子登園の魅力を感じられているようでした。

D. 在園児保護者のための長期休業中の預かり保育の実施

通常保育中の預かり保育に加え、これまでも長期休業中である夏休みにも、預かり保育を行っていましたが、今年度より、春休み・夏休み・冬休み中も預かり保育を行いました。預かり保育専任教諭と専門職員が担当し、実施日が増えたことで利用者も分散したため、担当教諭も固定でき、預けられる方もより利用しやすくなりました。平成26年度は、全34日の実施日で、515人の利用者があり、1日平均15人でした。

⑦ 園の施設見学会の継続

園児募集説明会を例年2回実施しています。平成26年度は、9月18日と22日に説明会を行い、9月20日（土）に施設見学会を開催しました。園児募集説明会は、合計

130 組が、施設見学会は 47 組の参加がありました。特に今年度は、施設見学会の日を休園日と振り替え、園児は休園として、教職員がそれぞれ 2 グループに分かれて案内を担当しました。本園の充実した自然環境（探索道や田んぼや畑等）を見ていただいた後、園バスに乗車し、大学構内を 1 周して天文台や 9 号館、新 5 号館を見ていただきました。全教職員で取り組めたことが、来園者への丁寧な対応につながり、好評を得ました。

⑧ 防犯・安全

A. 防犯・安全教室への参加

5 月 29 日に年長組は、例年実施されている広島市主催の交通安全教室に参加しました。小学校への進学を踏まえて、横断歩道の渡り方や交通ルールを意識し、約束を守ることなどを学びました。また、7 月 16 日には、新たに安佐南警察署の方を招聘して、防犯教室を開催しました。夏休みを控えての時期に効果的な実施でした。

例年、勤労感謝の日の前後に、安佐南警察署や安佐南消防所上安出張所を訪問しており、年間を通して教職員と園児の安全意識を高めています。

B. 施設・設備の安全

本園も平成 17 年に園舎が新設されてから、9 年が経過しています。安全面には気を配り、遊具の安全点検を毎月行い、事故や大きな怪我のないようにしています。遊戯室周りのウッドテラスが傷んできたため、板の塗り替えを行いました。若干の下板の補修を職員の手で行いました。

(5) 安田女子短期大学附属幼稚園

① 保育研究活動

A. 重点目標「やさしい心たくましい力の育成」への取り組み

本園の教育目標達成のために、4 つの指導の柱（心通うあいさつ・自然とのかかわり・友達いっぱい・おはなし広場）を掲げて日々の保育を展開しています。今年度は、この 4 つの柱を通して「やさしい心たくましい力の育成」を重点目標に設定し、年度当初に各学年の目標と具体的方策を保護者に示し、併せて学校評価にも取り組んできました。

年 3 回の学級懇談で、重点目標をテーマに保護者のグループ討議を行ったり担任から園児の成長の姿や課題を伝えたりしました。継続することが生活力やたくましい力に繋がることを保護者に理解してもらい、2 年前から各家庭で「約束表」「お手伝い表」に取り組み、協力していただいています。

保護者アンケートでは、重点目標の成果と共に本園の特徴的教育内容についての評価も行いました。保護者の評価は、全てにおいて高いものでした。

B. 図書教育の事例発表

本園では、聞く力が学習の基盤になると考え、聞く力を育て、話す力、考える力、思考する力に繋げることを目指しています。聞く力を育てるために、読書教育に力を入れ、平成 18 年に「おはなし広場」の柱を掲げました。

平成 18 年から、本年度までの読書教育の取り組みをまとめ、本学園が年度末に毎年開催している、第 8 回初等中等教育教員懇話会で、「おはなし広場」～絵本を通して育まれる力～と題して、中上えりか教諭が事例発表をしました。

② 図書教育の充実

A. 読み聞かせタイムと保護者対象「おはなし広場」

平成 17 年から始めた、週 1 回の園長とネイティブの先生による読み聞かせタイム「おはなし広場」を、今年は年間 29 回実施し、1 年間に年少組に 56 冊（内、英語の絵本 27 冊）、年中・年長組に 85 冊（内、英語の絵本 28 冊）の絵本を読みました。

また、保護者対象「おはなし広場」を年 2 回開催し、約 50 名の保護者と 15 名の弟妹の参加がありました。継続希望の声があり、次年度も予定しています。

B. 保護者による読み聞かせ

昨年度、保護者からの提案で始まった図書サポートを今年度も継続し、月 2 回、絵本の読み聞かせと絵本の修理に当たっていただいています。先生以外の大人や友達のお母さんに絵本を読んでもらう機会は、園児にとって楽しみな時間になっています。今年度は、父親のサポートチーム育Men's 主催の「秋のお楽しみ会」で、「おはなし広場」のコーナーが企画され、お父さんによる読み聞かせに大勢の園児と保護者が参加しました。

③ 自然体験

今年度も、安佐南区上安の観察農園で、年中児と年長児がいちご・スナック豆・玉ねぎ・じゃが芋、全園児がさつま芋・大根の収穫を行い、年長児がさつま芋の苗植え、年中児がじゃが芋の種芋植を体験しました。保護者会役員に収穫した野菜を使って、カレーを作っていただき、その中で年長児は野菜を切る体験をします。夏休みに実施するお泊り保育では、職員と共に収穫した野菜を使いカレー作りをします。

また、安東キャンパス内の田んぼで年長児は田植えや稲刈りを行い、収穫した餅米を使って 12 月には全園児で餅つきをするなど、収穫だけでなく植え付けや生長の観察、会食など、一連の活動として長い時間をかけて学ぶ活動は、食への関心を深めると共に、食べられなかった野菜が食べられるようになるなど偏食の克服にも繋がっています。農園や田んぼの世話をしてくださる方々への感謝の心も育まれました。

また、今年度も、フラワーフェスティバルに飾る花を育てる「ピースフラワープロジェクト花育」に参加し、2 月からパンジーとペチュニアの花の苗を育てました。

④ 一貫校としての取り組み

A. 小学校との交流

年長組は、10 月 21 日に 4 年生による読み聞かせ「おはなし広場」に招待してもらい、ペープサート劇や、パネルシアター、絵本の読み聞かせなどしてもらいました。年中組は、11 月 28 日に 1 年生の「あそびの広場」に招待してもらい、手作りの玩具と一緒に遊びました。どちらの交流も小学校の雰囲気を楽しみ、小学生への尊敬や

憧れの気持ちが育まれます。特に年長児は就学への期待が高まります。小学生は、園児のために準備や練習に努めています。相互に意義のある体験になっています。

B. 中学・高等学校との交流

毎年、幼児教育に関心のある高校生が、夏休みの預かり保育日に園児の生活を見学に来ています。今年度は、20 日間の預かり日のうち、6 日間参加し延べ 122 名の生徒が、午前 9 時から午後 4 時まで直接子どもに関わったり行事の準備を手伝ったりしました。

また、11 月には中学校 3 年生 221 名の生徒が、家庭科の授業で幼児の生活や成長について学習するため園児の生活を見学しました。

C. 創立 100 周年記念万物謝恩祭参加

毎年、12 月 8 日に針供養にちなんで「ありがとうまつり」をしています。針に代わり日頃使っている玩具や用具を祭壇に飾り、物を大切にすることを再確認しています。

今年度は、学園創立 100 周年を迎えることから、中学・高校の生徒会と共に、ありがとうまつりと同じ意味をもつ万物謝恩祭に参加しました。

安田リヨウ記念講堂に中学・高校と幼稚園の祭壇を作りました。中学・高校の祭壇の飾りに園児は興味津々で、二つの祭壇を比べたり、本物の豆腐や蒟蒻に折れたり曲がったりした針を刺したりし、初めての体験をしました。

⑤ 防犯・安全

A. 白島キャンパス合同避難訓練

昨年度、11 月に白島キャンパス内にある幼稚園・小学校・中学校・高等学校が初めて合同避難訓練を行いました。また、12 月にも引き続いて幼稚園・中学校・高等学校で合同避難訓練を実施しました。

今年度は、昨年の反省から、早い時期に行う事が望ましいと考え、5 月に実施しました。園生活に慣れたばかりの 3 歳児にとって、避難訓練は大きな不安を伴いますが、園児と生徒がペアを組んで避難することで、園児の不安は和らぎ、生徒も若い園児を思いやる気持ちで誘導してくれました。

今年度も、保護者の災害時の行動への意識を高めるため、この避難訓練実施中に、保護者に園児の避難訓練状況をメール配信しました。

B. 園バス乗車中の避難訓練

毎年、火災、地震、不審者を想定した避難訓練を園内で実施していますが、園バスを利用して通園している園児が、全園児の約 3 分の 2 いることや地震が通園時に発生する可能性もあることから、園バス乗車中の避難訓練を 11 月に行いました。3 台のバスで 7 コース運行していますが、7 コースとも最終バス停で園児を乗車させた後、地震が発生した想定で実施しました。園バス運転手と添乗職員の指示に従い、バスから降りて避難誘導リングを使い並んで避難する中、建物やブロック塀など危険な所を確認したり、余震を想定して姿勢を低くして止まったりしました。園バスには、それぞれの路線付近の避難場所を示す地図や避難誘導リングを常備していま

す。次年度は、もう少し早い時期に実施したいと思います。

⑥ 石巻市の被災幼稚園との交流

2011年3月の東日本大震災発生後の夏から、被災された石巻市の渡波学園 万石浦・長浜幼稚園のために、保護者と協力し継続した支援を行っています。

今年度は、10月に開催した「秋のお楽しみ会」で集めた絵本、文化まつりの収益金から義援金を贈りました。

万石浦・長浜幼稚園でも10月に秋祭りが開催され、8月に発生した広島市土砂災害の被災者への義援金を募って、本園に送っていただきました。遠く石巻市から広島市の被災者を想ってくださる気持ちを園児に伝えると共に、義援金は広島市に寄付しました。遠く離れた友達と心を寄せ合う交流は、有意義なものになっています。

⑦ 子育て支援の充実

A. 早朝預かり・長期休業預かり保育の開始

今年度から、就労している母親の支援を強化するため、午前7時30分からの早朝保育と長期休業中（春休み・夏休み・冬休み）の預かり保育を開始しました。そのため、預かり専任教諭を1名増員しました。

4月の通常保育日の早朝保育利用は延べ35人でしたが、次第に増え年間延べ948人が利用しました。午後5時までの通常預かりは延べ5,156人（前年度5,121人）が利用し、午後5時から6時までの延長預かりは延べ947人（前年度1,247人）が利用しました。1日平均27人（前年度27人）の利用でした。

また、長期休業預かりは、年度当初の春休みは1日平均利用児が8人と少なかったのですが、夏休み、冬休み、学年末の春休みと利用児が増え続け、夏休みの平均は19.9人、冬休みの平均は21.7人、学年末の春休みは30.4人になりました。

年間42日実施し、延べ890人の園児が利用しました。そのうち、早朝預かりは延べ64人、延長預かりは96人が利用しました。これまで、長期休業中に、外部の一時預かりなど利用していた園児も、慣れた場所で安心して過ごすことができました。

次年度は、延長保育を午後6時から午後7時までに延ばす予定です。

C. 安田小学校との合同延長保育の開始

2月から幼稚園の預かり保育室を利用し、午後5時以降の預かり保育を利用する園児と、アフタースクールを利用する安田小学校の児童との合同預かり保育を行うことにしました。幼稚園と小学校の専任教諭が担当しています。異年齢交流の幅が広がり、コミュニケーションの取り方や相手を思いやる行動など、相互に良い学びの場になっています。

D. 親子登園・園開放・園庭開放

今年度も2歳児を対象にした親子登園と休園日の園開放、1歳児からを対象にした園開放と園庭開放を実施し、未就園児親子に遊びの場を提供し、地域の子育て支援センターとしての役割を担ってきました。就園を控えた2歳児が対象の親子登園は、

園児の成長の過程を感じてもらえる場になるよう、昨年より実施期間を長くし回数も増やしました。

1年間の実施回数、参加者は下記の通りです。

- ・親子登園：50回、10グループ延べ163組の親子
- ・休園日の園開放：2回、延べ134組の親子
- ・開園日の園開放：2回、延べ46組の親子
- ・園庭開放：12回、246組の親子

⑧ 施設・設備

A. 大型遊具の設置

23年間使用していた園庭の大型遊具を撤去し、新しい大型遊具を設置しました。大型遊具の付近にあった藤棚が老朽化し危険なこともあり、共に撤去したことで、遊具の周りに安全基準に合せた平面を確保することができ、これまでより園庭が広く使えるようになりました。新しい大型遊具は、園児にとって魅力あるもので、毎日多くの園児が遊んでいます。

(6) 安田学園セミナーハウス

利用団体サービス向上のため、迅速なメールの対応、ケータリングの仲介手続、開閉錠の立合いをして、利用者にアンケートをとり、取り組みに反映しました。7月には無線LANを設置し、快適に効率よく研修や学習が行われるよう環境を整えました。

学外の利用者を誘致するために11月にセミナーハウス案内を県内の高等学校約130校に郵送しました。内、私学の1校が12月に見学に来られ、翌年夏休み6日間の予約につながりました。

閑散期の利用者増大に向けて6月と10月に4回見学会を開催し、併せて6月・10月・11月には学内者限定の1泊2日1,000円キャンペーンを実施しました。学内行事が重なり利用者は少数でしたが、ポスター掲示・ご案内の配布で改めてセミナーハウスの施設をPRすることができました。

年度末には大学・短大生卒業時のセミナーハウス利用促進のため、全卒業生を対象に「卒業式宿泊キャンペーン」を行い多くの学科の卒業生からの申し込みがありました。料金が安く快適に過ごせたと好評でした。次年度は改善点を見直し、早めに告知して実施していきたいと考えています。

今年度の利用実績は、延べ人数1,078名、団体数44件でした。大口が減り人数が減少しましたが、団体数は2団体上回り過半数が新規でした。繁忙期である夏期休暇中はほとんど毎日利用が入り、大学生の学習合宿、中高生のクラブ合宿があり、学外者においても学習合宿・クラブ合宿・一般利用と、9月下旬まで大盛況でした。

大学関係の新規利用者増を図るため、大学・短大学生用の27年度版「学生生活ハンドブック」にセミナーハウスの施設案内を掲載していただきます。

今後も新規利用者、リピーターを増やしていく取り組みを継続していきます。

(7) 創立 100 周年記念事業推進委員会

100 周年記念事業推進委員会では、「建学の精神」の継承と、次の 100 年に向けた活動のステップを、それぞれ次のように位置づけています。

ステップ 1 平成 25 年・平成 26 年は、学園の歴史を残し後世に伝える

ステップ 2 平成 26 年・平成 27 年は、建学の精神を深め共有する期間

ステップ 3 平成 27 年・平成 28 年は、未来に向けて建学の精神を継承し、外部にメッセージを発信していく期間

今年度は、昨年度着手したステップ 1 の活動を継続しつつ、新たなフェーズとしてステップ 2 に係る次の事業活動を行いました。

① 安田リヨウ 生誕 130 周年記念展

記念事業の一環として、創立者である安田リヨウ初代学園長の生誕 130 周年を祝う記念展を、白島と安東キャンパスで開催しました。

・白島キャンパス：平成 26 年 9 月 18 日～10 月 5 日

・安東キャンパス：平成 26 年 9 月 30 日～11 月 2 日

また記念展で使用した展示パネルを小冊子として編纂し、園児、生徒、児童、学生と教職員すべてに配付する作業を進めました。

② 安田学園創立 100 周年 記念式典、記念祝賀会

平成 27 年 2 月 21 日（土）「安田学園創立 100 周年 記念式典」を安田リヨウ記念講堂において挙行了しました。また「記念式典」に続き「記念祝賀会」を開催し、学園 100 年の歴史を全教職員で祝いました。

③ 安田学園創立 100 周年 記念品配付

学園創立 100 周年を記念して、“水引”を表した「箸置き」の記念品を製作しました。

安田リヨウ初代学園長は、女性の心得として作法を重視し、生徒だけでなく一般の方に対しても水引講習会を開き、広く指導されました。その想いを引き継ぐべく、学園と由来のある“水引”の「箸置き」を作り、教職員と園児、児童、生徒、学生全員に配付しました。

④ 安田学園創立 100 周年 記念音楽祭開催に向け企画会議を実施

平成 27 年 11 月 22 日（日）「安田学園創立 100 周年 記念音楽祭」開催に向け、企画会議を実施しました。今回の音楽祭では、各校園ごとの演目だけでなく、学校や世代を超え、園児、児童、生徒、学生、教職員、唐花会卒業生等が一体となって、協働して行う演目も検討中です。

「安田学園創立 100 周年 記念音楽祭」

・開催予定日：平成 27 年 11 月 22 日（日） 開場：13：30～ 開演：14：00～

・会場：広島県立文化芸術ホール（上野学園ホール）

III.財務の概要

今年度の資金収支について、収入総額は、199億1,590万円、支出総額は191億5,879万6千円となり(収支とも支払資金を除く)、前年度に比べ資産売却収入の減少により収入は52億5,437万5千円、支出は65億5,080万8千円減少した。科目の内訳では、学生生徒等納付金収入は現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科の開設等により学生数が増加し、2億6,010万1千円の増加となり、補助金収入5億2,731万2千円、資産運用収入2億6,072万7千円の増加となった。

消費収支は、収入総額が65億5,848万5千円、支出総額65億6,391万8千円と均衡したが、当年度は543万3千円の支出超過となった。これは牛田グラント校地取得等の基本金組入によるものである。

貸借対照表の資産の部合計は、前期末より27億8,809万2千円増加し410億8,488万円となった。また基本金は、第1号・第4号の基本金組入により26億3,953万3千円増加し、414億4,980万円となった。

平成27年3月31日現在において、資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は、386億2,270万3千円である。

今年度の主な整備事業は次のとおりである。

- 牛田グラント校地取得(28億円)
- 牛田西グラント整備費(3,467万円)
- 安東キャンパス1・2号館インフラ盛替工事(6,100万円)
- 安東キャンパス創立100周年記念モニュメント購入設置費(3,416万円)
- 安東キャンパス6号館北外部路盤改修及びインターロッキング仕上げ工事(2,250万円)
- 安東キャンパス東側駐輪場進入路造成工事(1,421万円)
- 白島キャンパスセミナーハウス改修工事(1,026万円)
- 白島キャンパス中学校情報教室改修工事(2,124万円)
- 白島キャンパス短大付属幼稚園屋外遊具更新(734万円)

1.資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度増減
学生生徒等納付金収入	5,779,086	6,034,796	6,078,278	6,271,682	6,531,783	260,101
手数料収入	102,285	93,349	98,935	106,988	116,739	9,751
寄付金収入	16,197	20,785	12,823	44,165	54,655	10,490
補助金収入	1,028,929	932,024	962,319	977,592	1,504,904	527,312
国庫補助金収入	441,690	344,808	354,176	379,276	852,829	473,553
地方公共団体補助金収入	587,239	587,216	607,643	597,816	651,575	53,759
学術研究振興資金収入	0	0	500	500	500	0
資産運用収入	91,545	503,974	668,309	633,008	893,735	260,727
資産売却収入	4,118,715	7,632,833	13,723,505	16,271,263	10,824,137	△ 5,447,126
事業収入	43,124	63,430	63,874	66,057	78,156	12,099
雑収入	202,380	136,918	189,438	147,824	98,032	△ 49,792
前受金収入	1,101,952	1,008,070	1,098,204	1,237,964	1,283,284	45,320
その他の収入	108,330	53,233	130,332	622,280	217,328	△ 404,952
資金収入調整勘定	△ 1,210,539	△ 1,215,884	△ 1,144,261	△ 1,208,508	△ 1,686,813	△ 478,305
小計	11,382,004	15,263,528	21,881,756	25,170,315	19,915,940	△ 5,254,375
前年度繰越支払資金	3,601,922	4,504,893	4,494,895	4,644,704	4,105,415	△ 539,289
収入の部合計	14,983,926	19,768,421	26,376,651	29,815,019	24,021,355	△ 5,793,664

支出の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度増減
人件費支出	3,527,248	3,679,211	3,815,761	3,720,707	3,950,337	229,630
教育研究経費支出	892,686	889,936	1,046,559	1,312,119	1,269,396	△ 42,723
管理経費支出	385,545	326,792	327,011	370,882	397,448	26,566
施設関係支出	146,823	121,717	171,961	3,397,470	2,971,425	△ 426,045
設備関係支出	169,747	139,753	168,425	442,674	187,938	△ 254,736
資産運用支出	5,355,278	10,112,315	16,234,342	16,436,571	10,374,319	△ 6,062,252
その他の支出	23,561	27,470	24,535	57,226	28,945	△ 28,281
資金支出調整勘定	△ 21,855	△ 23,668	△ 56,647	△ 28,045	△ 21,012	7,033
小計	10,479,033	15,273,526	21,731,947	25,709,604	19,158,796	△ 6,550,808
次年度繰越支払資金	4,504,893	4,494,895	4,644,704	4,105,415	4,862,559	757,144
支出の部合計	14,983,926	19,768,421	26,376,651	29,815,019	24,021,355	△ 5,793,664

2.消費収支計算書の推移

(単位:千円)

消費収入の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度 増減
学生生徒等納付金	5,779,086	6,034,796	6,078,278	6,271,682	6,531,783	260,101
手数料	102,285	93,349	98,935	106,988	116,739	9,751
寄付金	20,013	29,560	14,181	49,286	60,641	11,355
補助金	1,028,929	932,024	962,320	977,592	1,504,904	527,312
国庫補助金	441,690	344,808	354,176	379,276	852,829	473,553
地方公共団体補助金	587,239	587,216	607,644	597,816	651,575	53,759
学術研究振興資金	0	0	500	500	500	0
資産運用収入	91,545	503,974	668,309	633,007	893,735	260,728
資産売却差額	6,574	0	0	0	800	800
事業収入	43,124	63,430	63,874	66,057	78,156	12,099
雑収入	202,440	136,919	191,611	159,612	122,877	△ 36,735
帰属収入合計	7,273,996	7,794,052	8,077,508	8,264,224	9,309,635	1,045,411
基本金組入額合計	△ 509,781	△ 1,341,615	△ 1,531,431	△ 3,081,228	△ 2,751,150	330,078
消費収入の部合計	6,764,215	6,452,437	6,546,077	5,182,996	6,558,485	1,375,489

消費支出の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年度 増減
人件費	3,636,565	3,694,302	3,808,898	3,722,633	3,974,152	251,519
教育研究経費	1,955,867	1,936,067	2,037,913	2,143,493	2,150,329	6,836
管理経費	424,187	355,446	351,258	389,650	421,913	32,263
資産処分差額	358,894	95,085	160,916	36,187	17,302	△ 18,885
徴収不能引当金繰入額	0	38	0	1	165	164
徴収不能額	0	0	0	0	57	57
[予備費]						
消費支出の部合計	6,375,513	6,080,938	6,358,985	6,291,964	6,563,918	271,954
当年度消費収入超過額	388,702	371,499	187,092	-	-	-
当年度消費支出超過額	-	-	-	1,108,968	5,433	△ 1,103,535
前年度繰越消費支出超過額	3,456,204	2,840,091	2,434,058	2,110,349	2,933,281	822,932
基本金取崩額	227,411	34,534	136,617	286,036	111,617	△ 174,419
翌年度繰越消費支出超過額	2,840,091	2,434,058	2,110,349	2,933,281	2,827,097	△ 106,184

3.貸借対照表の推移

(単位:千円)

資産の部						前年度
科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	増減
固定資産	28,175,796	29,090,615	29,857,082	33,376,712	36,138,945	2,762,233
有形固定資産	18,137,884	17,327,196	16,477,750	19,434,987	21,691,904	2,256,917
土地	3,144,119	3,148,424	3,165,093	3,668,685	6,477,540	2,808,855
建物	11,081,138	10,600,451	9,949,464	12,139,074	11,582,973	△ 556,101
その他の有形固定資産	3,912,627	3,578,321	3,363,193	3,627,228	3,631,391	4,163
その他の固定資産	10,037,912	11,763,419	13,379,332	13,941,725	14,447,041	505,316
流動資産	4,561,630	5,284,045	6,357,248	4,920,076	4,945,935	25,859
現金預金	4,504,893	4,494,895	4,644,704	4,105,415	4,862,559	757,144
その他の流動資産	56,737	789,150	1,712,544	814,661	83,376	△ 731,285
資産の部合計	32,737,426	34,374,660	36,214,330	38,296,788	41,084,880	2,788,092
負債の部						
固定負債	1,027,040	1,042,131	1,033,213	1,023,387	1,022,358	△ 1,029
退職給与引当金	1,027,040	1,042,131	1,033,213	1,023,387	1,022,358	△ 1,029
流動負債	1,237,296	1,146,325	1,276,391	1,396,415	1,439,819	43,404
前受金	1,101,952	1,008,070	1,098,204	1,237,964	1,283,284	45,320
その他の流動負債	135,344	138,255	178,187	158,451	156,535	△ 1,916
負債の部合計	2,264,336	2,188,456	2,309,604	2,419,802	2,462,177	42,375
基本金の部						
第1号基本金	30,257,709	30,264,790	30,356,603	32,098,267	34,814,800	2,716,533
第2号基本金	2,663,472	3,963,472	5,263,472	6,300,000	6,200,000	△ 100,000
第4号基本金	392,000	392,000	395,000	412,000	435,000	23,000
基本金の部合計	33,313,181	34,620,262	36,015,075	38,810,267	41,449,800	2,639,533
消費収支差額の部						
翌年度繰越消費支出超過額	2,840,091	2,434,058	2,110,349	2,933,281	2,827,097	△ 106,184
消費収支差額の部合計	△ 2,840,091	△ 2,434,058	△ 2,110,349	△ 2,933,281	△ 2,827,097	△ 106,184
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	32,737,426	34,374,660	36,214,330	38,296,788	41,084,880	2,788,092

4. 貸借対照表関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
1	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	93.1%	93.6%	93.6%	93.7%	94.0%
2	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
3	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	89.4%	87.5%	85.5%	90.5%	91.2%
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	13.9%	15.4%	17.6%	12.8%	12.0%
5	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	368.7%	461.0%	498.1%	352.3%	343.5%
6	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	408.8%	445.9%	422.9%	331.6%	378.9%
7	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	7.4%	6.8%	6.8%	6.7%	6.4%

5. 消費収支計算書関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
1	帰属収支差額比率	$\frac{\text{(帰属収入-消費支出)}}{\text{帰属収入}}$	12.4%	22.0%	21.3%	23.9%	29.5%
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	79.4%	77.4%	75.2%	75.9%	70.2%
3	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.1%	12.0%	11.9%	11.8%	16.2%
4	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	50.0%	47.4%	47.2%	45.0%	42.7%
5	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{消費支出}}$	30.7%	31.8%	32.0%	34.1%	32.8%
6	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	7.0%	17.2%	19.0%	37.3%	29.6%
7	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	62.9%	61.2%	62.7%	59.4%	60.8%

6. 在学生数・教職員数の推移

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
在学生数 (単位:名)						
大学院		38	37	39	38	40
大学		3,581	3,699	3,708	3,799	3,859
短期大学		506	572	547	515	497
高等学校		694	637	681	670	703
中学校		606	653	660	667	644
小学校		490	491	492	488	486
短期大学付属幼稚園		192	193	195	195	187
大学付属幼稚園		212	207	208	208	207
計		6,319	6,489	6,530	6,580	6,623
教職員数 (単位:名)						
大学		449	404	447	452	495
短期大学		92	69	96	81	82
高等学校		63	60	61	65	67
中学校		55	55	57	54	53
小学校		32	45	44	38	41
短期大学付属幼稚園		15	16	18	20	21
大学付属幼稚園		19	17	16	21	22
その他		5	7	7	5	6
計		730	673	746	736	787

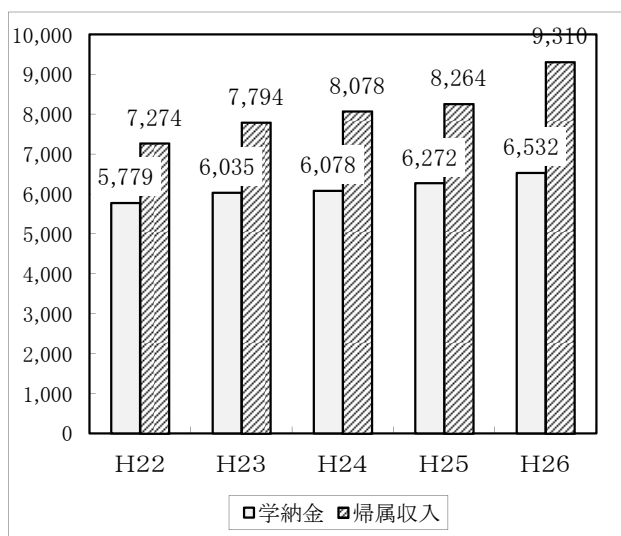
財務の概要

(5年間の財務 経年比較表)

(単位：百万円)

項目	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
①学生生徒等納付金	5,779	6,035	6,078	6,272	6,532
②帰属収入	7,274	7,794	8,078	8,264	9,310
③基本金組入額	△ 510	△ 1,342	△ 1,531	△ 3,081	△ 2,751
④消費支出額	6,376	6,081	6,359	6,292	6,564
⑤教育研究経費	1,956	1,936	2,038	2,143	2,150
⑥有形固定資産	18,138	17,327	16,478	19,435	21,692
⑦総資産	32,737	34,375	36,214	38,297	41,085

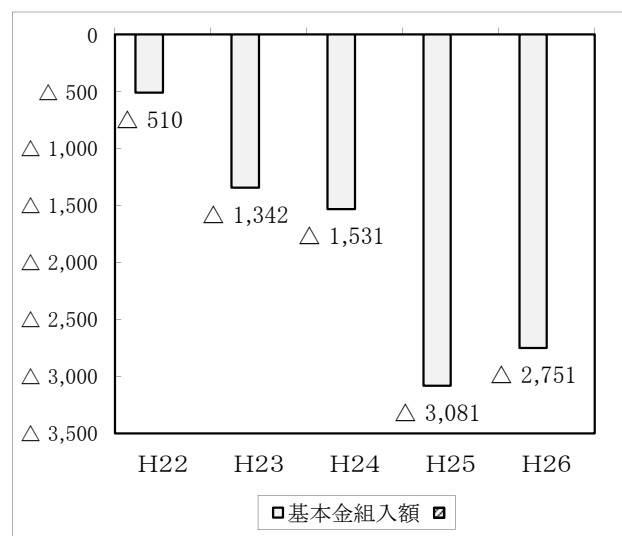
学生生徒等納付金及び帰属収入の推移



(%)

項目	H22	H23	H24	H25	H26
学生生徒等納付金比率	79.4	77.4	75.2	75.9	70.2

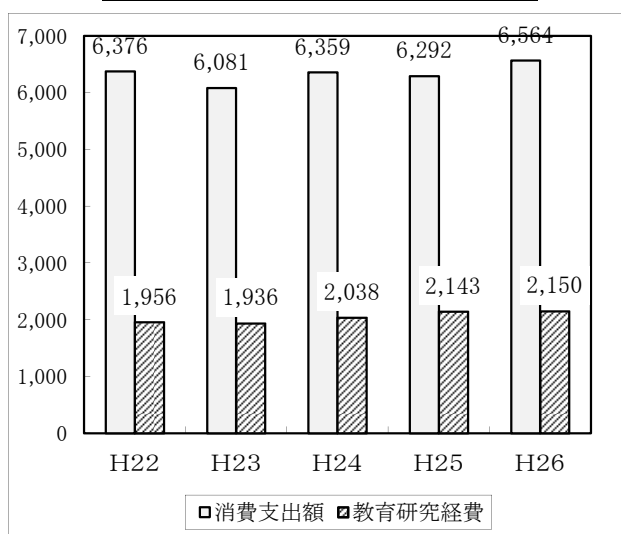
基本金組入額の推移



(%)

項目	H22	H23	H24	H25	H26
基本金組入率	7.0	17.2	19.0	37.3	29.5

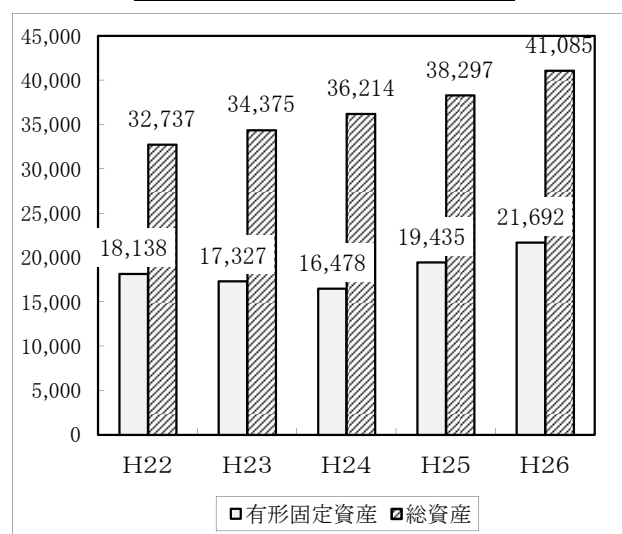
消費支出額及び教育研究経費の推移



(%)

項目	H22	H23	H24	H25	H26
消費支出比率	87.7	78.0	78.7	76.1	70.5
教育研究経費比率	26.9	24.8	25.2	25.9	23.1

総資産及び有形固定資産の推移



(%)

項目	H22	H23	H24	H25	H26
有形固定資産構成比率	55.4	50.4	45.5	50.7	52.8